あとがき
～監修の言葉～

私が研修医になった頃は大学病院のＣＴですら，各科が自由に撮影を依頼するのは難しかった．当時のＣＴは高価であり，そして処理できる症例も限られていた．このため臨床症状や，腹部単純Ｘ線写真，超音波画像の情報を元にはじめてCTの撮影が検討された．撮影されたCTの情報は貴重であり，１スライスを端から端まで時間をかけて見るのが，初心者としての読影法だった．読影技術の教科書も少なく，悩んだら解剖や病理の本まで開いて調べるしかなかった．時間はかかったが逆に考えると，迷い道で遊んでいる時間的余裕が与えられていたのかもしれない．

医療の発達は目覚ましく，現在ではスクリーニングで，わずか数分で数百枚のスライスが生み出され，その膨大な医療情報を若手の先生方も医師になった途端に短時間で処理していく必要がある．私たちの世代の画像診断医は，30年以上かけて，現在のようにスクリーニング的な画像診断の使用が可能となっていった世代で，段階的に医療情報が増加し，結果的に読影作業もかなり感覚的に行ってきた気がする．

はじめての場所に旅行するにはガイドブックが必要でしょう，そんな腹部画像診断の本をつくりたいと，診断専門医になったばかりの沖先生から提案され，そして実行された．本書が腹部画像診断という旅の必携の書となり，新たな世代がわれわれの未知の目的地を見つけることを切望する．

2024年２月

公立甲賀病院 放射線診断科・IVR科
山﨑道夫